

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	悪性黒色腫	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Lymph node dissection for clinically evident lymph node metastases of malignant melanoma	
	論文の日本語タイトル	悪性黒色腫の臨床的に明らかなリンパ節転移に対するリンパ節廓清	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ13-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	12099654	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Eur J Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	28	
	号	4	
	ページ	424-430	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002 Jun	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Meyer T	Univ. of Erlangen, Germany
	その他著者 1	Merkel S	同上
	その他著者 2	Goehl J	同上
	その他著者 3	Hohenberger W	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		

一次研究の 8 項目	目的	臨床的に明らかな所属リンパ節転移を有する悪性黒色腫患者への根治的リンパ節廓清施行後の予後に影響する因子に関する検討	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	大学病院外科	
	対象者	1978-1997 年に経験された、臨床的に明らかな所属リンパ節転移（触診、エコー、CT にて検出）が存在し、その他の転移が検出されない患者 140 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （2）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （22）	
	介入（要因曝露）	根治的リンパ節廓清	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	根治術後の予後に影響する因子の解析	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	1) 全 140 症例の生存期間の中央値は 25 カ月で、5 年生存率は 30% であった。 2) 予後不良と関係する因子は、50 歳より高齢、体幹の原発巣、3 個より多数のリンパ節転移、リンパ節の被膜外浸潤であった。 3) 多変量解析でも、50 歳以下か否か（ $P=0.02$ ）、体幹原発か否か（ $P=0.005$ ）、リンパ節転移が 3 個以下か否か（ $P=0.01$ ）、リンパ節被膜外浸潤の有無（ $P=0.04$ ）が有意に独立する予後因子であった。	
	結論	所属リンパ節転移に対する根治的廓清術の施行は意義があり、約 1/3 の患者を救命する可能性がある。しかし、根治的廓清のみでは予後の改善が望めない患者群も存在する。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	

	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 1 施設での症例数がそれほど多くない、後ろ向き試験。
--	------------	--